

農業



令和7年3月号

会誌 No. 1728

目次

巻頭言

わが国の在りたい社会像の実現に向けた
農学教育・食農教育の重要性……………上岡 美保 3

論壇

農業機械のこれから……………鈴木 良典 4

農事功績者座談会

人と環境に優しい鉢花栽培に取り組み、
花のある暮らしを目指して……………前川 茂 6
現地指導者のコメント……………梶野 陽子 15
意見交換…………… 16

表彰農家訪問

独学で成し遂げた切りバラ生産経営……………腰岡 政二 21
—鹿児島県南大隅町に富田良成さんを訪ねて—

食を楽しむ

料理をしよう……………佐藤洋一郎 29

研究の最前線

九州北部のムギ作における除草剤抵抗性
スズメノテッポウの総合防除技術の開発……………大段 秀記 30
—雑草防除にも総合防除の考え方を—

農業・農村の現場から

奄美大島の多様な人材・ツールを生かした
タンカン産地の生産力向上の取り組み……………松尾 至身 37
—時代・環境の変化に応じた「人と技術の魔改造」—

世界の農業は今

ウルグアイ農業の概観と課題……………林 瑞穂 43

私の経営と志

兵庫県姫路市でブドウ・野菜栽培……………小山内陽介 49
—地域に認められる存在へ—

農家の気持ち

フリーランス農家として生きる……………小葉松真里 51

農政情報

…………… 52

編集部から…………… 52

支会インタビュー

大日本農会秋田支会の紹介……………戸嶋 忠 53

大日本農会だより…………… 54

表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

大根やぐらと大根畑（宮崎県田野・清武地域）

田野・清武地域は、夏は降水量が多く、日照時間は年平均2,100時間を超える「温暖湿潤」な気候です。冬には乾燥した西風「鰯塚おろし」^{わにつか}が吹きます。

この気候風土を最大限に生かし、夏はカンショや葉タバコ、冬は大根や高菜の栽培など、年間を通した作付体系と「干し野菜」の技術を組み合わせた露地畑作の高度利用システムとして発展してきました。2021年2月には、日本農業遺産に認定されています。写真は本地域のシンボルである「大根やぐら」です。「大根やぐら」は、11月頃に組み立てられ、12月初め頃から白首大根を干し始めます。

^{もうそうだけ}孟宗竹と杉丸太で作られ、標準的なやぐらの大きさは、高さ6m、幅6m、長さ50mほどです。設計図は存在せず、先人たちが長年かけて培ってきた知恵や技術を基に、生産者自らが組み立てを行います。

本地域では地域住民や関係団体による農業学習会や食育活動を行うなど、伝統農法への理解を深め、次世代へ受け継ぐための活動にも取り組んでいます。

（田野・清武地域日本農業遺産推進協議会事務局 田中 紗世）